様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７１０２９８

研究課題名（和文）貧困とリスクを支える生存基盤の国際比較：沖縄のシングルマザーの事例を中心に

研究課題名（英文）The Humanosphere Supporting Risk and Poverty Avoidance in Cross-national Comparative Perspective: A Case Study of Single Mothers in Okinawa

研究代表者
佐藤　奈穂（Sato, Nao）

京都大学・東南アジア研究所・その他

研究者番号：１０６００１０８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円、（間接経費）　　1,050,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究はシングルマザーにとっての所得貧困の回避とリスク対応が可能となる生存基盤のあり方を探究した。シングルマザーは常に「貧困」なグループとして貧困削減の対象となってきた。日本の母子世帯の所得は他の世帯の40%程度にすぎない一方，東南アジアの国々では所得貧困に陥る傾向は見られない。経済成長を遂げた日本と変動の中にある東南アジアのシングルマザーを支える生存基盤のあり方を探究するために，本研究ではカンボジア農村のシングルマザーと日本と東南アジアの中間に位置し，社会文化的にも東南アジアに近い特色を持つ沖縄のシングルマザーを事例として取り上げた。それらの研究から広義の「貧困」概念の理解に貢献している。

研究成果の概要（英文）：This study looked into how the humanosphere is, which enables avoidance of poor and risk, through a revelation about single mothers regarding (1) the way of working; (2)the way of obtaining asset; and (3)the way of caring for children and aging parents. Single mothers have always been the targets of poverty reduction as a "poor" group in the field of development economics. Single-mother households in Japan earn income only about 40% of other households, while this trend of heading toward poor income is not observed in Southeast Asian nations.
This study took Cambodia's case and Okinawa's case, which is both economically and geographically located between Japan and Southeast Asia and is both socially and culturally similar in its character to Southeast Asia. Additionally, through these researches, this study contributed to the understanding of the concept of "poverty" in the broad sense of the term.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：シングルマザー　沖縄　カンボジア　貧困　地域研究　コミュニティー　相互扶助

１．研究開始当初の背景

(1)「発展途上国」を対象とした貧困研究と貧困概念

「発展途上国」における貧困問題は，従来「先進工業国」と「発展途上国」の間の経済格差として扱われ，経済成長をいかに促進するかが貧困削減の鍵になると考えられていた。しかし，1970 年代以降，従来の経済発展＝GNP 成長と考えた経済成長信仰の時代が終わり，開発＝発展のパラダイムが多様化し，貧困の概念も多様化してきた。1970 年代の BHN 論は，経済成長だけでなく「人間の基本的ニーズ」の必要性を強調した。1980 年代後半以降は，センの「潜在能力（capability）アプローチ」，チェンバースやアッポフらの「参加型開発」，「社会関係資本論（social capital）」など様々な新たな理論研究を加え，貧困問題に関する研究はより多面的な様相を示してきた（Sen[1992]，Uphoff[1996]，Chambers[1997]）。また，2000 年版の世界銀行の「世界開発報告」では，これらの流れを受け，貧困の定義を「所得貧困」「潜在能力の欠如（教育・健康指標等）」「発言力・権力の欠如」「リスクに対する脆弱性」の 4 つとしており，貧困がより広い観点から捉えられるようになった。言い換えれば，これらの状況が顕在化しない生存基盤の存在は，広義の貧困を回避させることを可能にすると言える。この 4 つの項目うち，所得によって計測が可能な「所得貧困」と，世帯や社会の構造を分析することによって解明が可能な「リスクに対する脆弱性」の 2 つが，社会経済構造の分析に直接関わる領域であり，本研究が主として念頭に置くのも，この 2 つの種類の貧困である。

(2)シングルマザーの「貧困」とリスク対応

開発経済学の中で 1980 年代後半から女性がより貧困に陥りやすい存在であるとして「貧困の女性化」が強調されるようになった。貧困削減政策の対象を定める中で，夫を持たない女性が世帯主となる世帯はより貧困に陥りやすい存在として認識されてきた（Nilufer［1998］，Chant［2004］，国際連合［1992］）。しかし，カンボジアを含めた東南アジアの国々ではその逆の結果が出ており，夫を持たない世帯の女性たちが他の世帯より貧困に陥る状況は見られない。

筆者はこれまで内戦によって多くの男性が死亡したカンボジアの一農村を対象に死別・離別女性がいかに生計を維持しているのかについて調査・分析を行ってきた。カンボジアの女性たちが夫を失くすというリスクに遭遇しながらも，貧困を回避することが可能となる要因には，資産の確保や女性に開かれた経済環境の存在，労働力の確保や子どもや高齢者の扶養を支える親族ネットワークの存在があった。平等的な経済環境や親族を中心とした社会関係が存在し，それが女性たちの生存基盤として機能しているカンボジアでは，夫の喪失という事柄はリスクとして顕在化せず，所得が減少することもないのである。

(3)アジア間比較の視点

一方，日本に眼を向けると，シングルマザーが所得貧困に陥る割合は非常に高い。母子世帯の平均世帯所得は夫婦世帯の 40.4%を占めるにすぎない（厚生省[2002]）。母子世帯の貧困化の理由には，女性の雇用機会や賃金，資産へのアクセスなどの不平等に加え，保育所の不足等の福祉制度の不整備がその理由として挙げられている（篠塚[1992]）。日本では，夫を持たないというリスクを政府や市場，家族が支えているものの，そのリスクが解消されているとは言い難い。つまり，カンボジアの女性と日本の女性を所得によってその貧困度を比較するならば，カンボジア女性は日本の女性よりも貧困である。しかし，女性のリスクを支える生存基盤のあり方か

ら「貧困」を評価するならば，カンボジアの女性たちが日本の女性よりも「貧困」であるとは言えなくなるのである。

日本では離婚および未婚の母の増加により，多くの女性がシングルマザーとなる中，子どものケアに加えて高齢者のケアが女性たちにとっての負担となっている。一方，経済発展を辿る東南アジアでも都市中間層のみならず，地方の村落においても出生率が低下し，少子高齢化へと向かっている（店田[2005]）。経済成長を遂げた「先進国」の「貧困」と社会，経済構造が大きく変動する「発展途上国」における「貧困」をシングルマザーの生存基盤という視点で広く比較し，検証するのが本研究の将来的な目的である。そして，多様なシングルマザーの現状を，所得だけでは計測できないより広い視点から人々の生存基盤を評価することによって，広義の「貧困」概念の理解に貢献する。

２．研究の目的

今回の研究では，カンボジアにおける研究に加えて次の１つのステップとして，沖縄を対象として取り上げる。沖縄は地理的にも経済水準的にも「発展途上国」である東南アジアと「先進国」である日本の都市の中間に位置し，社会文化的に東南アジアに非常に近い特色を持つ。沖縄県は離婚率が全国で最も高く，母子世帯の割合も最も高い（厚生省[2004]）。一方，親族・知人からの資金調達率が全国の約２倍の割合である沖縄は東南アジアと同様，顔の見える人間関係を基盤とした相互扶助が存在する社会でもある（松島[2006]）。沖縄におけるシングルマザーの「貧困」を明らかにすることにより，日本の「貧困」の一側面を東南アジアでの経験から明らかにしていく。

本研究では女性たちの経済活動や資産確保等の所得貧困に関する調査・分析に加え，夫を失くすというリスクに親族や地域の社会関係を含めた社会環境，経済環境がいかに対応しているのか，そのリスクに対応する生存基盤のあり方を明らかにする。

今回の研究では，沖縄離島地域において，資産や所得といった経済分析に加え，親族を中心とした社会関係によるリスクへの対応を明らかにするために，世帯を超えた人々の互助関係に着目する。

３．研究の方法

本研究では，まず先行研究のサーベイから「貧困」や「ポスト開発」など本研究に関連する概念の整理を行う。そして，カンボジアの農村部におけるシングルマザーに関する追加調査を実施するとともに沖縄離島地域においてシングルマザーの所得貧困とリスク対応に関するフィールド調査を行う。フィールド調査では個人および世帯を対象とした質問票を用いた聞き取り調査に加え，主にシングルマザーを対象としたライフヒストリーを含む個別のインタビュー調査を実施する。

主な調査内容はシングルマザーの所得と資産，子と高齢者のケアの状況，女性を取り巻く社会・経済環境そして親族および村落内の互助関係とする。蒐集したデータは，統計分析および記述分析を行う。個人および世帯を単位とした分析に加え，世帯を超えた社会関係を分析するために，各事柄ごとにその関係性の広がりを抽出し，その特徴を明らかにしていく。そして，統計分析の内容をライフヒストリー等の記述分析により補強する。具体的な内容は以下の通りである。

①シングルマザーの経済状況の解明

シングルマザー個人およびその世帯の経済状況を明らかにする。

②子・高齢者のケア状況の解明

子を持ちながらも就労する必要のある女性がいかに子を養育しているのか，また老親をケアしているのかについて，現状および子の幼少期について過去の状況を含め調査・分

析を行う。

③女性を取り巻く社会・経済環境の解明

保育所，老人ホームの現状とその利用状況，福祉制度（児童扶養手当，生活保護等）の利用状況を調査する。また，社会環境として，祭事等生産に結び付かない労働における女性の役割，それが創出する社会関係を明らかにする。

④親族および村落内の社会関係の解明

夫を失くした時点での世帯の再編成の状況や，世帯を超えた労働力，家事労働力における相互扶助や金銭の賃借，贈与関係，子のケアにおける親族間の互助の状況を明らかにする。

また，村落内における相互扶助関係（農繁期の労働力交換であるユイ，金銭相互扶助の模合等），共同関係（祭事，儀礼，学校行事等），モノや金銭の賃借・贈与，近所付き合い等の状況を把握する。

４．研究成果

ここでは主に沖縄離島地域における研究成果について述べる。フィールド調査は主に沖縄県北部の伊是名村（沖縄県島尻郡）で行われた。伊是名村は面積 15.44 平方キロメートル，人口 1566 人（内，女性 742 人）世帯数 790 世帯(2014 年 6 月現在)の離島である。合計特殊出生率が 2.35 と全国平均 1.37，沖縄県 1.78 よりはるかに高いのが女性に関連するこの島の１つの特徴である（厚労省[2004]）。

研究成果について，研究目的の内容に沿って述べていく。

(1)シングルマザーの経済状況の解明

伊是名村の主な生業は農業が全就労者の 21.5 パーセントを占め，建設業 13.6 パーセント，医療・福祉 10.6 パーセント，公務員 9.1 パーセントとなっている。また，一人当たり平均年間所得は 2182 千円と，県の平均 2045 千円よりも若干高い（総務省[2010]）。

未成年の子を持つシングルマザーの生業は主に農業，福祉施設職員，役場や学校の臨時職員，製糖工場の事務，親の自営業手伝い等で，夫を失くした時点で手に職のない女性たちは役場や学校の臨時職員を渡り歩くという状況が見られた。非正規職員としての就労は任期が定められており，不安定で他の一般世帯よりも所得は低い傾向にあった。

(2)子・高齢者のケア状況の解明

子を持ちながら働く女性たちの子へのケアの実践には近隣に居住するシングルマザーの両親やキョウダイが大きな役割を果たしている。保育所への送迎や留守中の食事の世話など世帯が異なる場合でも両親などが補助している実態が明らかになった。また，シマという独自の地理的環境とシマの中での人と人とのつながりの強さが日々の子育てに安心感を与えている。高齢者のケアはかつてすべて家庭の中で行なわれていたが，現在は介護が必要な高齢者については特別養護老人ホームでのデイサービスの利用や入所者も多くみられる。

(3)女性を取り巻く社会・経済環境の解明

①行政と福祉制度

伊是名村には１つの保育所と１つの高齢者福祉施設がある。保育所に待機児童の問題はなく，シングルマザーが保育所を利用できないという状況は見られなかった。

また，村役場での調査によると，対象児童をもつシングルマザーの約 7 割が児童福祉手当を受給している。あるシングルマザーは「児童福祉手当がないと生活ができない」と語っており，子の養育にとっての手当の役割は大きい。村役場では職員が対象児童をもつすべてのシングルマザーを把握していた。職員は彼女たちに対し個別に利用可能な福祉制度を説明し，利用を勧め，受給手続きを行

っていた。また，臨時職員採用や村営住宅の入居の際にはシングルマザーたちが優先されるなど，行政においても人と人とのつながりが福祉の有効利用・充実につながっていた。

②祭事での女性の役割と社会関係

伊是名島には実に 50 以上もの年間行事がある。それに加えて子どもの入学，高校合格祝い，葬儀など世帯毎の行事も行われる。それぞれの行事では女性たちが主に食事の準備などを担当する。そこでは準備を担当する女性の子を他の女性がその間ケアを行うなど互助関係もあり，シマの人々の連帯感や女性どうしのつながりを強化している場でもある。

(4)親族および村落内の社会関係の解明

以上でみてきたように“人と人のつながり”はシマの各所，各場面で観察される。伊是名島では他の沖縄地域でも広く行われている親族間の金銭の賃借や模合も同様に行われている。ここでは特に当該村で特徴的な「祝儀のやりとり」について述べたい。

伊是名村では小学校入学および高校入学時に「祝儀のやりとり」が広く一般的に行われる。ある一般的な世帯では息子の高校入学時に島内 224 世帯から合計約 60 万円の祝儀が渡されていた。祝儀額の高額化を防ぐために村では一度の祝儀額を 2000 円と定めている。近い親族などの場合はこの規定には従わない。親の交友関係の広がりの違いによってやりとりされる実数や金額に違いはあるものの，子どもの養育過程において互いの経済的な相互扶助の役割を果たしている。シマの中で広く行われているこの「祝儀のやりとり」は人と人のつながりの実態の現れの１つであり，入学時に必要な経費を実質的に負担している。

以上，伊是名村でのシングルマザーの生存基盤について概観してみた。シングルマザーたちは離婚後シマに戻ってきた者も多く，シマでの生活は経済的に余裕があるわけではないものの「孤独感はない」と口を揃えた。シマの中での人と人とのつながりがシングルマザーの生存基盤を支える１つの役割を担っていた。

(5)得られた成果の位置づけと今後の展望

本研究は，①各地に一定割合で存在するにも関わらずこれまで最も貧困なグループとしてしか焦点の当てられなかったシングルマザーを分析対象とすること，そして②社会関係を含めた経済環境や社会環境をリスクへの対応を可能とする生存基盤として捉えることにより，従来の「貧困」概念に新たな視点を加えるものである。

また，これまでの統計データを用いた貧困指標は大規模な多地域における比較を可能としたが，いくつかの指標のみで計測・比較が行われるため，非常に限られた「貧困」の側面を示すにすぎなかった。本研究は，調査対象地域における独自の自然・社会・文化・経済環境に配慮した形で研究を行うことにより，各社会が持つ固有の，そしてより人びとの生活の実情に近い多様な「貧困」のあり方と「貧困」回避の実態を示したものである。

また，本研究はこれまでの社会・経済調査が前提としてきた個人・世帯という単位に留まらない，世帯を超えた人と人のつながりに着目した。世帯を単位に固定した調査では見落とされてきた，世帯を超えた人と人のつながりがもたらす「貧困」への対応力を検討することによって，当該社会の特質の一面を明らかにした。

今後は，より深く調査対象地域のシングルマザーにとっての生存基盤の実態を明らかにしていくとともに他の地域との比較研究へとつなげていきたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）

① Sato Nao, 書評“Why Did People Kill People? , Kyoto Review of Southeast Asia,査読無, 2013 , http://kyotoreview.org/book-review/why-did-people-kill-people
② 佐藤奈穂, ポスト開発, [書籍]持続型生存基盤論ハンドブック, 査読無, 2012, pp.176-177
③ 佐藤奈穂, 貧困, [書籍]持続型生存基盤論ハンドブック, 査読無, 2012, pp.178-179
④ 佐藤奈穂, 潜在能力, [書籍]持続型生存基盤論ハンドブック, 査読無, 2012, pp.180
⑤ 佐藤奈穂, ソーシャルキャピタル(社会関係資本), [書籍]続型生存基盤論ハンドブック, 査読無, 2012, pp.188-189
⑥ 佐藤奈穂, 世帯を超えて生を支え合う親族ネットワーク-カンボジア農村の事例から, [書籍] 人間圏の再構築-熱帯社会の潜在力, 査読有, 2012, pp.53-83
⑦ Sato Nao, Mutual Assistance through Children's Inter-household Mobility in Rural Cambodia, [書籍] The Family in Flux in Southeast Asia: Institution, Ideology, Practice, 査読有, 2012, pp.339-364

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
佐藤奈穂（Sato, Nao）
京都大学東南アジア研究所・研究員
研究者番号：１０６００１０８